

神としてのあり方を捨てて

ピリピ人への手紙 2章 6-11節

はじめに

今日はクリスマス礼拝です。クリスマスは、イエス様がお生まれになったことを祝う日ですが、なぜイエス様はこんなにも世界中で祝われるのでしょうか。イエス様の生涯は、わずか三十数年です。その短い生涯で、なぜ二千年の時を経てもなお、世界中でその誕生が祝われるのでしょうか。

イエス様は単なる偉大な聖人ではありません。聖書によれば、イエス様は、神が人となられた方です。イエス様は、神であり人である方です。イエス様は決して、人が神となった方ではありません。生身の人間が、あらゆる難行苦行に耐え、悟りを開いて神となったわけではありません。その逆で、神が人となられたのです。人が神に昇りつめたのではなく、神が人へと下られたのです。

イエス様の誕生が、二千年の時を経てもなお世界中で祝われているのは、偉大な聖人だからではありません。そうではなく、神が人となってこの地上にお生まれになったからです。その意味でクリスマスは、神が人となられたことを喜び、祝う日と言えます。

1. 神が人に

今日の聖書箇所 6-7 節には、「**キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました**」とあります。イエス様は、神であられるのに、「神としてのあり方」を捨てて、人となられたのです。神様は、世界と人間を造られた方です。神が人となるというのは、御自分が造られたものと同じようになるということです。神様は霊ですから、肉体を持ちません。しかし、神が人となるということは、神が肉体を持つこととなります。肉体を持つということは、空間に縛られるようになります。またお腹が空いたり、喉が渇いたり、痛みを覚えたりするので。しかしイエス様は、聖霊によって処女マリヤからお生まれになりました。そのため、罪の性質を持たずに生まれ、生涯においても罪を犯されませんでした。

イエス様は、神であられるのに、「神としてのあり方」を捨てられた方ですが、神でなくなったわけではありません。イエス様は、神でありつつ、人となられたのです。その意味で、イエス様は、神であり人であられる方です。

ではイエス様は、人となるために何を捨てられたのでしょうか。それは、神としての栄光、称賛と言えるかもしれません。神としてのあり方を続ければ、人間からの讃美、礼拝を受けることもできたでしょう。しかしイエス様は、それらを一切捨てて、人となられたのです。

新改訳聖書の脚注に、「固執すべきこととは考えずに」とあります。イエス様は、神としての栄光、称賛に固執されなかったのです。それにしがみついて、天に留まろうとはなさらなかったのです。

私たちにとって、捨てることは難しいことです。人からの称賛、地位、財産、家族などを捨てることは難しいことです。むしろ私たちは、それらを手に入れるために、一生懸命生きているようなところがあります。そしてそれらを一度手に入れたら、なかなか手放せません。それらを失うことを恐れて、必死で守ろうとします。しかしイエス様は、私たちとまるで逆の歩みをされました。イエス様は、御自身が持っているものに固執されませんでした。それらを失うことに怯えるもありませんでした。イエス様はそれらを自由に手放されたのです。

2. 神がしもべに

イエス様は、ただ単に人となられたのではありません。人となられて、王様のように振舞ったのではありません。イエス様は「しもべ」の姿をとられたのです。「しもべ」とは、「奴隷」のことです。奴隷は、主人に絶対服従をします。イエス様は、父なる神様の「しもべ」となって従われました。

イエス様は、父なる神様に遣わされて、人となられたのです。父なる神様は、イエス様に一つの使命を与えられました。それは、私たち人間の罪を償うために、十字架で死ぬという使命です。

私たち人間は、アダムとエバが神様に背いて禁断の木の実を食べて以来、罪の性質を持って生まれてくるようになりました。罪とは、神様に従わないことです。アダムとエバが神様に従わずに禁断の木の実を食べてから、私たち人間も神様に従わない性質を持つようになりました。それゆえ私たち人間は、神様との交わりを失い、あらゆる悲しみや苦しみを引き起こすようになり、神様の裁きとしての死と永遠の地獄の刑罰を受けなければならなくなりました。

イエス様は、私たち人間を罪と裁きと刑罰から救うために、父なる神様に遣わされて人となられたのです。十字架というのは、十字に組み合わされた木に、両手・両足に釘を打たれ、張り付けにされる処刑です。十字架刑は、神に呪われた者の象徴でした。イエス様は、私たちに代わって神に呪われるために、十字架に架かれたのです。イエス様は、私たち人間の罪を十字架において償って、救いの道を開いてくださったのです。人間の罪は、人間が償わなければなりません。だからこそイエス様は、神としてのあり方を捨てて、人となられたのです。そして人間の代表として、神様に裁かれ、呪われ、私たちと神様との交わりを回復しようとしたのです。

イエス様は、父なる神様の「しもべ」「奴隷」として、最後まで、十字架の死に至るまで、完全に従われました。イエス様は、決して自主的に十字架に架かれたのではありません。あくまでも、父なる神様に従うために、十字架に架かれたのです。イエス様にとって、「従う」ということが何よりも大切だったのです。

新約聖書のローマ5：19には、こうあります。「**ちょうど、一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです**」。私たち人間は、神様に造られました。それゆえ私たち人間にとって、神様に従うということが何よりも大切なことでした。しかし人類最初の人であるアダムとエバは、神様に従えませんでした。その結果、全人類に罪が入り、神様の裁きと刑罰を招くようになったのです。

イエス様は、アダムができなかったことを、人間の代表としてされたのです。イエス様は、私たち人間の代表として、神様に従われたのです。私たちに代わって、神様に従われたのです。そして神様に従われたことによって勝ち取られた「救い」を、イエス様を信じる私たちにも分け与えてくださるのです。

3. 神が高く上げられ

9節には、「**それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました**」とあります。父なる神様は、御自身に忠実に従われたイエス様に報いを与えられたのです。イエス様を三日目に死からよみがえらせ、天においても地においても、すべての権威を与えられ、天に昇らせ、父なる神様の右の座に着かせられたのです。そして、すべての名にまさる名をお与えになったのです。

「すべての名にまさる名」とは、何でしょうか。ローマ10：13には、「**主の御名を呼び求める者はみな救われる**」とあります。すべての名にまさる名とは、人を救う名前であるということです。つまり、イエス様の名前を呼び求めれば、誰でも救われる、そういう栄光を与えられたということです。

おわりに

クリスマスは、神であられるイエス様が、人となって生まれたことを喜び、祝う時です。イエス様は、神であられるのに、「しもべ」「奴隷」となってこの地上にお生まれになって、私たち人間の代表として、神様に従われました。私たちのために十字架に架かって罪を償うという使命にさえも、従われました。またこの使命に従うために、神としての栄光や称賛さえも捨てられました。イエス様は徹底的に、父なる神様に従われたのです。父なる神様は、その報いとして、イエス様にすべての名にまさる名、つまり人を救う名前、イエス様の名前を呼び求めさえすれば、誰でも救われる、そのような栄光をイエス様に与えられたのです。

父なる神様は、私たちを愛しておられます。私たちを愛しているからこそ、イエス様をこの地上に遣わされました。イエス様も私たちを愛しておられます。私たちを愛しているからこそ、父なる神様に徹底的に従われたのです。

父なる神様は、またイエス様は、私たちに何を求めておられるでしょうか。父なる神様は、またイエス様は、私たちにイエス様の名前を呼び求めてほしいと願っておられます。そして、救われてほしいと願っておられます。私たちは、イエス様が人となってこの地上に生まれ、私たちの罪を償うために十字架で死なれたということを知り、聞くだけでは救われません。イエ

ス様の名前を呼び求めなければ、救われません。

11 節に「**すべての舌が、『イエス・キリストは主です』と告白して、父なる神に栄光を帰すためです**」とあるように、イエス様の名前を呼び求めるとは、「イエス・キリストは主です」と告白することです。イエス様は神であり、私たちの救い主であることを、自分の口で告白することです。ローマ 10：9-10 には、こうあります。「**もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです**」。誰でも、イエス様は神であり、私たちの救い主であると信じ、自分の口で告白するなら救われるのです。すべての罪が赦され、神様との交わりを回復し、永遠のいのちを与えられるのです。

父なる神様は、またイエス様は、私たちにもう一つのことを求めておられます。それは、神様に従うということです。私たち人間は、神様に造られました。私たち人間は、神様に従う者として造られました。神様に従い、神様との交わりを喜び、楽しむ者として造られました。しかし人類最初の人であるアダムとエバは、神様に従うことに失敗しました。そのことによって、私たち人間は神様との交わりを失いました。

しかし神が人となられたイエス様は、私たち人間の代表として、もう一度神様に従われました。十字架の死によって私たちの罪を償うという使命にまで従われました。それは、アダムによって失われた神様との交わりを回復させるためです。そして、私たち人間の本来の生き方を回復させるためです。私たち人間の本来の生き方は、神様に従い、神様との交わりを喜び、楽しむことです。イエス様は、私たち人間の代表として、その模範を示されたのです。

イエス様を信じ告白して救われた私たちは、救われたからそれでよいではありません。私たちは、本来の生き方を回復しなければなりません。そのためにこそ、イエス様は十字架の死にまでも従われたのです。私たち人間の本来の生き方は、神様に従い、神様との交わりを喜び・楽しむことです。旧約聖書の伝道者の書 12：13 には、こうあります。「**神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである**」。

クリスマスの背後には、イエス様の父なる神様に対する従順があったのです。クリスマスの目的の一つは、私たちの救いのためです。そしてもう一つは、私たちの本来の生き方の回復です。神様に従って生きるからこそ、私たちの本来の生き方です。神様が私たちに求めておられることは、聖書の中に書かれています。聖書の中に書かれている神様の御心に従って生きるからこそ、私たちの生き方です。また神様は、この世界と私たち一人ひとりの人生に計画を持っておられます。神様は御自身の計画を実現されるために、私たち一人ひとりを用いられます。私たち一人ひとりには、神様からの使命が与えられています。その使命に従って生きることもまた、私たちの生き方なのです。

天におられる私たちの父なる神様。

あなたは、私たちの救いのため、私たちの本来の生き方の回復のために、御子イエス様をこの世に遣わしてくださいました。私たちは、あなたに背き、あなたの裁きと刑罰に服すほ

かない者でした。しかし人となられたイエス様が、私たちに代わって神様に従い、私たちの罪を償ってくださいました。私たちは、イエス様の名前を呼び求めます。イエス様こそ神であり、私たちの救い主であることを信じ、告白します。どうか私たちを救ってください。

また私たちが、イエス様の模範に倣って、本来の生き方を回復することができるようにしてください。あなたに従い、あなたとの交わりを喜び、楽しむことができますように。聖書に書かれているあなたの御心に従い、私たちの人生に用意されているあなたからの使命に、従っていけるように導いてください。

この祈りを、神が人となられた救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。